

廣益俗說辨一

神祇

13

954

2

廣益俗說辨卷一目録

神祇

補 天神七代乃祝

補 伊弉諾尊伊弉冉並多天浮橋之孫乃祝

新 伊弉諾伊弉冉並一女三男之生孫乃祝 附 素盞鳴乃祝
地祇乃祝

補 伊弉冉並多葉泉小乃乃乃祝

一 天照太神乃祝 大日如來乃祝 伊弉冉並多葉泉小乃乃乃祝 附 素盞鳴乃祝

神璽乃祝 訂補

補 天鏡乃祝 伊弉冉並多葉泉小乃乃乃祝

廣益俗說辨卷二
954
2

廣益俗說辨卷二

宰乃個多ハ至貴代稱イヒミコトナモ上下大小代稱皆以多イヒミコト化カミミナ

心は氣と子母うくと
と^子母明を天よわり人よわり神代

久き事よりいふに依りて今自れよりいふに其の別れ
 同一教の心を出る教とて明徳とていふふと依りて
 公義の心を思ふとて依りて依りて依りて依りて依りて
 依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて
 依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて

補

伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

今按るに二神天浮橋よまき
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

盧鴻よまき
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

鳴よまき
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

明天人唯一之理也とわきま
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

新伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき
 依りて伊井謙尊伊井冊尊天浮橋よまき

海とくは領し終り系蓋鳥の領終るしとて沖見連とふ初
 小なる和列島城の繫よ千の叙とて名をうけ終る神と御
 果ててとてふと終る天照太神系蓋鳥城とてふは終りて
 天の岩戸よとてうとせ終りて六世界とてふは終りて
 もと八百神連とて城をうけ終る岩戸城よとて終る
 七日終る神とて太神とてうとて終る系蓋鳥城とてうとて
 に行くとて千の叙と終る神とてうとて終る神とてうとて
 蛇とてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る
 今按る。伊弉諾伊弉冉一女二男とて終る神とてうとて終る
 に二尊の所よとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る

尊ハ天照太神の妹也と記と其外軒遇突智天明王稚彥
 事勝國勝等此神ももわとわわとて一女二男とてうとて終る
 もとてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る
 すて終る神とてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る
 してはとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る
 志とて終る神とてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る
 水神とて終る神とてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る
 終る神とてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る
 地とて終る神とてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る
 叙とて終る神とてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る神とてうとて終る

神代卷一素盞鳥素盞鳥ミコトの重播
 子群毀ら或ハ太神新嘗ニヤウニヤウに新ニヤウニヤウに教ケガレ戻ミカエー又太神
 齋服殿イハハダと御衣ミソノと織オリせうき天アマ名ナ班バン駒コマ成ナリらぬーて
 授オクいもうふかシかカ乃ノ乃ノといきシはハてあひ天アマ石イシ窟ヤより好イ
 戸トと穿キて出デ居リぬ中ナカより又内侍所ニヤウニヤウ代事ニヤウニヤウ此コノに号ナう
 わる江家次第ニヤウニヤウ云内侍所ニヤウニヤウ岳ノ仁天皇世ニヤウニヤウ始ハジメ神ニヤウニヤウ鏡ニヤウニヤウ
 別殿ニヤウニヤウ御温明殿ニヤウニヤウ故院コノ被仰ニヤウニヤウ云ニヤウニヤウ禁秘鈔ニヤウニヤウ作ニヤウニヤウ内侍所ニヤウニヤウ神鏡ニヤウニヤウ
 昔飛出ニヤウニヤウ欲ニヤウニヤウ上天ニヤウニヤウ女官ニヤウニヤウ懸唐衣ニヤウニヤウ禁秘鈔ニヤウニヤウ作ニヤウニヤウ奉引留ニヤウニヤウ依ニヤウニヤウ此ニヤウニヤウ
 因縁ニヤウニヤウ女官所ニヤウニヤウ禁秘鈔ニヤウニヤウ守護ニヤウニヤウとわく内侍所ニヤウニヤウと号ニヤウニヤウとふれ始ニヤウニヤウ
 又モウ後神ニヤウニヤウ系ニヤウニヤウ蓋ニヤウニヤウ鳥ニヤウニヤウれとてニヤウニヤウ後ニヤウニヤウひニヤウニヤウ城ニヤウニヤウよりニヤウニヤウせてニヤウニヤウふニヤウニヤウ

黃泉クラウゼニよりて見後ハガラムも中へいりてわひびき
人死て中へいりてい

今按ふよ大下地あり黄泉ハ佛氏此不隔中の中へい

と神代卷云伊弉諾尊追伊弉冉尊入於黄泉ヨモツクニ豊秋津

ト定記よりいふ神代口史云人於黄泉者殞歟之所黄泉

原也孟子曰夫蚓上食槁壤下飲黄泉註云黄泉

濁水也史記註云天玄地黄泉在地中故言黄泉

少河多沢考知魚一又伊弉冉尊伊弉冉尊多ふわひ

終々小記一そふる祭義云祭之日入室倭然必あり

見乎其位周還出戸肅然必有聞其容聲出戸而聽氣

然必有聞乎其歎息之聲也少ふいりてんく

但一ニその神事と人傳とをさへて東家秘傳云陽神ヨウジン居上

方主天陰神居下方鎮地伊弉諾尊神功已了還

高天原伊弉冉尊為火神所燒留地底其義實炳

焉と見へるなり少ふいりてんく

一 天照太神宮と大日如來と云或ハ吳恭伯と云既并神聖

乃既

作既云む一世國いさなふと云此大海也上は大日如來文

わう天照太神天乃努降と云いりてかきささりふふと云ふ

露乃て一第六天代麻呂と云れとみては清國と云ふ佛法

地交互而號之者也

右見于冊加社語

是等儀を以て考知也

又神璽ハ魔王ノ形カクのわが神代卷云天照太神乃賜

天津彦々火瓊々杵尊八坂瓊曲玉及八咫鏡草薙劍三

種寶物タマノモノと仰り八坂瓊曲玉ハ神璽なり事文類聚ルイ云璽

王者印也瑯琊代醉編ミ天子獨以印稱璽又獨以玉

と仰ふと此ハ神璽ハ神印なり

神璽此事詳天子部安徳天皇ノ系下ニ有

せりわが世々ノ代禁秘抄キミヒシ中神璽宮中鏡程物動返

返不可願カガシと思へり又天照太神と大日如來とミナモト等々

非なりと云神乃神德光被四表格于上下ヨロイ云云

大日靈貴也稱ミコトノミタマ一を以て倭姫世紀鎮座傳紀寶基

本紀小載神託タマシ曰屏佛法息近喜式イサキ内外七言ナナコト忌

詞コトわが禁秘抄キミヒシ内侍ウチノサヘ乃賜物タマハルモノと稱イハせと殊小神

事六種の忌イミ此中コノナカは不預フゾク穢惡ケガレ穢惡ケガレ佛事ブツコト也ナリ今

小コの儀ノリを二所ニトコロに神カミを依ヨリて入イルと云得ユる儀ノリなり

儀ノリと云べし又大日如來オホヒコノミナモト八咫瓊ヤタノハヒ乃賜物タマハルモノと稱イハせと殊小神

云今所イマノトコロ以テ總スベテ合アハサテ八例ヤチノタタミ名ナ大日本オホニッポン者モノハ由ヨリ大日靈貴オホヒコノミタマ降ス靈レイ

故ユヘ自有ヨリ此名コノナ補ササ日本紀纂疏ニッポンキザンシュ云陰陽インヨウ二神ニカミ始生ハジメニ日

神故カミノコト以テ日本ニッポン爲ス名類聚ナミョ神祇カミキ本源ホンゲン云大日本オホニッポン國クニ者

大八洲也オホヤマト惟タリ大日靈貴オホヒコノミタマ治國シツクニ故也ナリと思へり山崎

重加シゲカ云俗俗ソコソコ天照太神アメノミタマ八咫伯ヤタノハヒ也三讓ミヤウ乃額寶ナカノタマ

天照太神此神孫なり吳ハ恭伯よりてすふ世此側
 たりし事歟哉日かたんと恭伯の後やんや史記
 吳ハ世家と按ずる太伯率して子か、仲雍立後十七
 世支子被れ勾踐なるは、越と名けり此後我朝孝昭天皇三
 年より事倭交りたり、吳ハ日本に通ぜり異域乃人
 我國小来て臣民となす者あり其氏族と蕃別しより
 蕃別種歟哉、多し其中に松野氏あり新撰姓氏録云
 松野ハ吳王支子被れ孫なりと是吳人我朝より來りて始なり
 日本紀より按ハ應神天皇三十三年春二月阿智使に都
 賀使と吳より遣へ、縫工女被れ求へ、二使者より蕃

わたり吳よりとんとすふに乃始と云ふは、乃始加老成
 なる事なり、是より、蘇我王と云ふは、久遠の昔二人と云
 て、蘇我の事なり、是より、蘇我の事なり、是より、蘇我の事なり
 見我朝より吳より、吳王工女兄媛才媛吳織冠織
 冠と云ふは、今吳國と云ふ、大織冠、織冠是、執政代也、此
 佐明對馬より來て、吳青より維摩經と稱し、
 以て吳青と對し、後といふ、吳青此源記なり、
 然れども、泰伯と天照太神といふ事、いづれ書かんとん、
 日本記纂疏一條、蘇我乃後より、賴書と考ふ、又、姚と婦
 人、名、吳と稱し、わたり、ハ、天照太神ハ、始、此、陰靈神、功皇

后之中興其女名方氏有酒儀姬氏國と稱するもの
字より山で養ふにふとと純なり異稱目是等と云ひて

信後此れより考へて云ふ

補

天鏡より月殿より一と後と作らる

信後云ひて天鏡より月殿より後と作らるは
後小月殿此れより後と人わけて後と作らる
と云ふ事あり

今按るに月殿と号せし禁裏と云ふこと
志の紙に云ふに後と云ふに之より後と云ふ
類聚神祇本源鎮座編云、此時神明之通明而天

文地理以自存者也故鏡作神名號天鏡神註云
月殿言鑄鏡之室考知

二 賀茂皇太神ハ造化乃雷神と云ふ事あり
女後産みと云ふ

信後云賀茂神社ハ造化乃雷神と云ふ事あり
今按るに賀茂皇太神ハ造化乃雷神に云ふこと

れ女の子より山後齋加本朝社格云と云ふ事あり
尊下云と云ふ事あり
く齋院と云ふ事あり

[illegible]

三

之
天
慶
應
の
一
公

永仁四年二月の事なり。字多紙
皇、字涉、涉文と号して今よる。天照志辨

此段訂補

三輪神乃説

俗說云三輪神者天竺靈鷲山乃修守金毘羅神方之摩土

少てハ摩多羅神といふ素盞烏より新羅國より日本
飛來つて居るといふ

今按るに在れ況非なりと三輪神と素盞烏よりいふと
大己貴命なりと大和國三輪山或三輪大和神とも
記さるハ三輪山也よりモモ三嶋
小三輪大神とありて姓氏録云大和主神大己貴命娶三嶋
溝杭耳之女王櫛姫夜未曙去不曾晝到於是玉
櫛姫績苧係衣至明隨苧尋覓經於茅渟縣陶邑
直指大和國御諸山還視苧遺唯有三縈〇度會
延經神主云三輪水曲之名三與水訓通又以此言
通取義三縈為西北方西北隅東北隅北方水旺

萬物始自氷來年之發無不本於此茅渟縣和皇
國在西御諸山大和國在東績苧譬年穀生成之
一理苧遺唯有三縈者北冬農事已終一年之遺
餘也以國作神配北陰詳ハ三輪考
とある也とありて三
輪神と稱とありて又新羅國摩多羅神天竺昆
比羅神乃及ハ神代卷に素盞烏尊帥其子五十猛
神降臨於新羅國居曾尸茂黎之處乃興言曰此
地吾不欲居遂以埴土作舟棄之東渡出雲國鞆
川上所在鳥上之峯とありて附會してこれ
これあり

補

木花^{コハナ}園^{エン}耶^ヤ姫^{ヒメ}立^{タツ}戸^ド室^{シム}よへて焼^{ヤキ}くぬさるゝ

惟役云木花西郎娘を戸室に入火紙はきし
 けんと座きま
 といふと何事とわくしき事をうと

今按る小室於媼乃無戸室小入多やきこすこごとくす
其煙わう度會延經神主云、田耶媼ハ木靈也無戸室
言^{イフ}土故^{ツチヲ}火燒^{ヒキ}室陽氣^{ハルヲ}至^{ヨウキ}土中^{チウニ}也生^{ウマ}三子^{サンコ}言^{イフ}三季^{サンキ}生^ハ
四子^{シコ}言^{イフ}四季^{シキ}皆造化^{ソウカ}也神代卷^{カミ}ノ載^{ナリ}とてうかぬと云
乃^{ケレ}形容^{ヨウ}か何^{ナニ}古^コ俗^{ソク}ゆゑ未^ミ人^{ニヒト}理^リ以^テ誠^{マコト}不^レ言^{ハス}と云^{イハ}幻^{ケニ}妄^{モウ}
小^コ室^{シム}と云^{イハ}こゝろ深^{フカ}理^リときこ免^メじとて文^{フミ}義^ギよはひそ^キ後^{ノチ}
あつたれ

其經乃度會延經神主云用耶娘八木ナギノキ也無尸室

言^{コト}土^{ツチ}故^{ハミテ}火^ヒ燒^{ヤキ}室^{シム}陽^{ヨウ}氣^キ至^{イタ}土^{ツチ}中^{ナカニ}也^{ナリ}生^{ウマ}三^{サン}子^コ言^{イフ}三^ミ季^キ生^ハ

四子言四季皆造化也
神代卷之五
我々々々々々

乃所害か何^{ナニヨウ} 古^コ 俗^ハ 少^シ 未^ミ 人^リ 理^リ 以^テ 誠^ニ 不^レ 言^ハ ら 記^ス 幻^{ケニ} 妄^{モウ}

小
論^キ
と
今
深^ニ理^ニ
と
き^ニ
免^ニ
と^ニ
て
文^ニ義^ニ
は
此^ニ
に
後^キ

家とあり

勤

豊王姫ハ
 執王世子なるを小産^{サシコ}す
 執乃^{ツク}がらと現^{アハレ}

孫少龍

倍況云々出思ふ新まよはるる勢に入
女を玉姫と娶ふ

子其後姫^{ヒメ}産^{サン}却^ゴ小龍のうら我わうと次是龍女なるをう

今按予度會延佳神主^ミ統之^ミ邦代卷之^ミ晦^ミ
又^ミわね

飛宮といふほど海より海底よりわきで一掃といふ所より

火々出見多入
 御さこふ
 仁まのうりか
 所病シ

わづらひしをきくはるるにこれぞもや何あはれ

海彦成子よわく
一神奇ハを古一
定乃コトハ言ふコトハ一之

一字と云ふは、^ヘいふは、^{ジツ}其の實と云ふに、^{キフニ}記文の、^{セン}賢者^{ニヤ}と云ふは、^コ其の

豊玉姫ハ一橋乃主れ女子なりと云々上主紙曲言一々

乃^テ子^ヲ按^ス小日本

紀舊事紀古事記等ノ鹽土老翁來ハテ無月咍マカ同

小船
日中北纂疏云堅固小
船者龍之飛如船
と
小、テニ、ミヨト
出見号紙れせてい

之我此船よりおきばやきうくゆき後味御

⁴ 渚わらん其石のまゝにうづりて 魚鱗のどくはくもて

文家^{ミヤ}何^ヤぞーそれ^{ワタツミ}綿津見神乃^{ミヅミカミ}文家^{ミヤ}何^ヤぞーゆ^ユ泉^{イハ}

船は東海津に居候よりわたり給ふより足る事なり
ナリ
ワタリ
フル
ミ
後後
ちくま

又海部と都部小あうと和代巻ふ伊勢諾

伊弉冉生海神等と何れを見たり
古事記ニ生海神名大綿津

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and a prominent vertical crease down the center. A dark, irregular horizontal stain is visible near the top edge. The binding edge on the left is visible, showing the stitching or glue of the book's spine.

姓氏錄之海太貴海非佛護會之修也。又云安曇ツミ宿祢スミ海非フ色シキ律リツ

編撰者主君子孫も凡令之後や又云凡海連同社男孫も凡令之後や
クケウ
変む毎申矣中乃海衣ウガあゆみ人なりと云ふ

五ツミノカミ
七ツカミ
ウエ

孟子曰
梁丘曰
梁丘曰
梁丘曰
梁丘曰
梁丘曰
梁丘曰
梁丘曰
梁丘曰
梁丘曰

[illegible]

不介也其玉照八海と云ふなり一津比女子あり難と云ふ

子田かり夢^{ナミ}下^{シタ}夢^{ナミ}乃^{ナニ}以^{ヨリ}好^{ヨウ}く^クなり多^タくと合^{アヒ}

其子必以爲己言成以之爲己力乎人爲己力乎

[illegible][illegible]

而菴也フモテヂ・オウ 而進也ス・ウ・マ・タ・ラ・セ 行也ハカ 甫也ホ 艮也ヲハ 中切也ス・タ・キ・ホ 索隱也ヲナリ 而進也ホ 行也ハカ 甫也ホ 艮也ヲハ 中切也ス・タ・キ・ホ 索隱也ヲナリ

面拍地而迎者蛇行也蒲服蒲富達蛇屈踞也

乎いひたりてとて神書不載惟是に依る事ありて
 子いひ已生未生有形無形の傳わりて天賦のされたり人
 体落るるれわく人となりて天賦のされたり人となりて人となりて
 從來天人唯一の理其旨を以て釋し慢る小儀とゆふ
 かりん

廣益俗說辨一編

廣益俗說辨卷二目錄

神祇

- 一 八幡小菩薩号わね流付 弘法大師さかひの所教に流并ハ
- 二 祇園牛頭天王八天竺乃神と云流小補
- 三 春日大明神佛と云々流
- 四 佐吉大明神白樂天青苔白雲れ詩歌乃流
- 五 東寺の門米よて稲紙あふ老人と稲あといひる流言補
- 六 山王権現比叡少玉現乃流訂補
- 七 山雲大社と毎年十月法神あつと云流小補

人王成すして後、成物からし雨電、霜雪れどく天より
降るをみれば、やみはるばるとつて思ふは八幡本紀、無作帝
御誕生時八流は情とて軍士成して非常といふは、
経るもいふは、緯成八幡鷹也とす、すといふは、
此段訂補

二、神皇正統天王八天竺乃神といふ説

倭説云、小天竺吉祥天、王舍城の王、高貴帝と号し、三男は
遊て諸星は探題とて天刑星となつて、婆娑婆界よりて
牛頭天王といふは、毘盧舍那れ化身也、かつて人王ふ、
只中も、頭ハ犢角といふは、此説又り、いふは、それとす、
祇園社と稱と

今按、日本紀纂疏云、山城國祇園神社、則進雄神

之化迹

補神祇式云、山城國愛宕郡八坂卿祇園社、三座諸社、根元記云、中間大政所、牛頭天王素盞烏尊、垂迹。東間八王子五男三女、西間稻田姫、本御前。

公事根源、備後風土記、神代直指、鈔と考ふは、素盞

烏、牛頭天王といふは、武塔社とも云、加社語云、祇園社

と牛頭天王といふは、痛して感神院といふは、いふは、良下、允

上と成あり、良ハ少男、素盞烏尊、允ハ少女、稻田姫、小比と成

ハ感ありて、夫婦乃道なり、威れ卦上ハ、角ハ四ニ、身ニ、

と、四ニ、なり、是れ、小比とて、いふは、此説ともいふは、倭説の

誤説也、ハ、ハ、小補

三、春日大明神佛といふ説

春日大明神佛といふ説

俗説云春日大明神ささみの佛中てこころふわつ世ふ
られ紙春日れ神作とよぬ

今按るは鎌倉志よさく春日とて佛師乃名なりと佛
像れとわつと樂れ紙面中と春日の他数多あり舊記よ
舊文會稽と熱ハ河内國春日於邑乃人なりと見せるとに
佛師なりと（後ハ父の紙紙春日の他とよなり）後唐附會れ
後ふ春日大明神乃他といひて世人とすくとせつと信用を
づくと（上）これのさわつに鞍工大坪道禪（下）なり麻澤と
り若わらぬと麻澤大明神鞍と他とつとよと（後）わらわ
はふ發煙——

口伝者大明神自赤天青苔白雲此詩歌乃説

俗説云唐れ白樂天曰わろ人若知麻澤とて世人とて後つを
新め伝者大明神老翁と現下為とすれてわらわれがま
船とせて青苔風衣懸巖肩白雲似帶廻山腰と傳
し麻澤は老翁奇とていひて知ていさくおげ衣きまを
いとわはささ色何てきぬまゆ山れ若紙と傳るまをさ
赤天松らきていさ北漁翁とてわらわと中く目われ
者いふささとわらひてとてに漕りうとてふ

今按るは白氏文集に此詩及樂天東行れ事なり本朝
乃正史實録傳者書ふと人々を但し江表抄は白雲似

帶圖山腰青苔如衣負巖背山まをるるききふい
 けふはふくふく衣名無山を芳すふいあうやふて
 都在中う他と執とうふよぬ事の老は訪歌と市や
 半免て後右樂天の傳ふこととてあらん
 五東より門希中て福とあふ老人と福あふあふ後
 俗説云空海東より門希中て老人と福あふあふ後
 乃音河のくられとあふて東の流ちふと福とあふあ
 都。福あふあふとあふ

々按ふに冰なりと諸神記云元明天皇和同四年二月
 九月倉稻魂神始現于伊奈利山地主神則荷田

明神也其地祝之故號稻荷大明神

和漢合運云和同四年
稻荷神現の公事根

源集釋云和同五年二月十日戊午初現于伊奈利三箇峯。神祇拾遺云稻荷八地土地主神荷田神ト号ス此處三倉稻魂神ヲ祀ユニ云

ト定記云辰巳乃方仁當天倉稻魂乃無跡阿利

夫此神和百穀於播玉故仁名奉神代乃昔與利

此峯仁向玉母不知只三峯仁顯玉之和人皇十

三代元明天皇和銅四年辛亥二月十一月仁無

跡寸誠仁諸人哀憐乃御心深久蒼生作物和州

乃片葉赤天萬乃災於穰玉。神名帳云山城國紀

伊郡稻荷神社三坐神祇拾遺云宇賀御魂中伊

群諾尊上伊群並尊下尊女三狐ノ由縁ニヨツテ木

枕ヲ安置ス

鎮座傳記云宇賀美多麻神三狐神同座神也改名事女神類聚神祇本源云專女三狐神新撰樂記云伊賀專女河海抄云伊賀伊賀之狐白狐と云ふ所ある今今編み

並尊創時生兒號倉稻余又別ノ宇賀所魂稻女ナリ系尊鳥鎮

座傳記云宇賀美多麻神是伊賀諾伊賀冊二柱

尊所生神名畧記云屋船豐宇氣姫命是稻靈也

俗謂宇賀美多麻神廿二社註式云稻倉魂神一

名豐宇氣姫命右説各訂補ス舊文上考ヘ見ル雍州府志云稻荷出現

和銅四年二月九日一作也以長曆推之則其日

當初午今不用九月而於初午日諸人參詣俗

謂初午參新撰六帖光俊初以此類よささう也と云ふ

いひまゐるがしめていかりの松れまゝの松もあつ

わう美言傳法傳記よ最和二年三月廿日空海六十二

歳にて寂すと云ふ八年子ノ終つては空海出まゝ福

出現乃和銅四年一六十餘年後方り年キ歴れお遠と

考知魚此段訂補

六山王權現比叡山よ出現乃後

信統云山王權現とむ一傳教大師小比叡比峯のわめて三

峯乃日強を見子釈迦ヤカミタ陀藥師ヤシ比像イマ張わるは傳教其

名氏同よさ入といふ一聖代三テ点に横乃一ヨコ点を加横乃

三タテ点よ聖代一テ点を添ソフと云ふといひて光ミチと云ふて云ふの

亦きくもてわき人壽二万歳れりは地よるまきり
老翁就有るは然るに地を親きに就きとるく
佛法源布ありしかるに後るに一統源ありて佛法源
世ハ教するハ教を傳ふ大師とてのくげ山依開闢一教へ
わきいふの山此王とてのく後るに佛法をちか
せし物一二佛來りてわきとてのく十八百歳と
經てはら教するハ教を傳ふ大師とてのく山王と現
かの山々白蛇乃非とてのく山王と現

林羅山系山王辨云周乃靈王此る子喬松とてのく
天台山へ入見千列上帝より紙上界官府より命きて

桐栢人右弼王とてのく桐栢天皇此別稱なり其廟を山
中ふ建くま君中次佐呼く山王土比中次佐呼の
天台小令チヤ智者大師講智顗乃分子とてのく講堂れせり地
とてのく改り造る建堂乃目山王感教一佛源り
蘇よとてのく地大は地ふとてのく蘇よとてのく
とてのく唐乃龍別靈樹院乃信如教地中ふ入又出てい
秋山とてのく舊なりやとてのく秋山王乃皆山山山
山靈乃異稱なり乃の三點樣れ一丘樣乃三點樣れ一
丘とてのく乃の三丘よとてのく
涅槃經云如字三點若並則不
成伊能亦不成如摩醯首羅面
得成伊能乃の三丘よとて一念三千三千一念の意は擬と樣三

聖母のまゝひかり提婆品は玉體龍女成佛に経よれ
 いそゝろいそゝろ要と次なる提婆に二字成るゝにて提婆の
 三字とく妙法に二字とくゝとく女玄氷乃に字少と次
 ら後謎のまゝひめて附會の所なり又白髮の神ハ胸の
 ら中なる七まゝひまゝしてまゝとく海流見事とくま
 麻姑の東海ニ為桑田事文類聚とくるまゝとく事を候て
 おうけゝるゝと秋迦支那はまゝとくゝんや日本とく白
 髪は非は地と佛はゆゑとハ定光素人天竺と智恵は
 讓ふた事と牽合せざるなりかれ山城とくくま
 ら先地とくまゝ紅花わいて後と痛く本佛附影は光

とくもらて信を解^ゲちとハ小齊成帝れぐに并^ヘ列^レ
 東山は徑^カ狐^コ痛^ウとあゝ急^{キツ}けられと見えよむんれ右の
 みわう彼徒^カ乃いそは死と拈^チとねものハ古根やふれど
 ねよ古な紙何の中又五侯さる信雍^{ヨウ}列^レ儒常一後
 狐^コ痛^ウと死於骸骨みまくらて古れねと
并列の信又侯
され信衆列の
 信がう法
花林よか 中何ぬと知初^{ハジメ}なりきととたのこ
梅子よ西遊地記
おもふ古おこ
 て華嚴經狐^コ痛^ウとて法のせうと著書集よふ急^{キツ}とて信^シ獨^{ドク}
 護^ゴ紀伊志完雪山まで舌^{ゼツ}めては華^ケ行^{コウ}狐^コ痛^ウとて死^シとて日本靈安社お
色は數の 又木佛^{モブツ}雲^{ウン}わつとてとも木佛不渡^{フタ}火泥佛^{ニブツ}之^ノ後^{アト}
事なり
 あ^ラ衝^{シュウ}梁^{リョウ}とてなる湖^{ミヅ}水とてよ光^{ヒカリ}わう山中やと光^{ヒカリ}あり
 ひや水れぬつき山^{ヤマ}名^ナ幽^{ユウ}なるぬねのいつろ精爽^{セイサウ}はく時^{トキ}也

今按るに世々神書正史小をかりて人々を云々
執めを操る。予武江に在りて此書を讀み人々を
志てこれと同は神を月れ沙汰他國よりハカシメ
おれと云ふ云々めてハカシていふは多しと云ふ
と予も答へて貝原益軒云十月と神を月れと云ふは
純陰の月を云ふ陽を月れと云ふは陽を月れと云ふ
少陰と云ふは鬼ハ陰の靈なり神ハ陽の靈なり鬼神
和合は云ふと云ふと割と陰ハ音かん和合は云ふ割
と鬼なり神と云ふと割一紫苑と云ふと割と云ふ
と云ふ陽ハかんといふ神をけり云々ハ陽紙と云ふ

とて神無月とハ陽な此月おればなり
 聖人久しうてを
 と陽月とねさひハ純陰の月と云ふも陽いまだか
 りてきまづあらず成るべきがみからんとすは候とみ
 て申とも下一
 を年官のつきに尼姫に治り侍る十月出雲大
 社に流石ありて男女乃縁といふより六
 常陸志と考ふる常陸乃男女はひは麻生の事とまりてト定れ婚成
 なると重と媒とこの月よ入て女あるやこれ草率とす久しんよを
 男の名に去りてハ和名とて祐のおふそふいふ巫現ともなりて之也
 中にも多と力てむとみて女とのかわとよとのいとひわさやう考られ者
 れのみやはひら男かれハ朝夕と帝と肩よめとて是れ男乃きうんと候
 も男との親ときけん情とぬいて主婦とたうあづきていらふといれども
 といへりこれ代俗なる語幸れ縁むとびと啼く執とうは後とあらう
 てゆきなり半
 は脱小補
 いやうや

八

庶鴻大明神要石代競

俗説云日本と背負ふ大石はわろとくろく人と
 張ふとくろくも鹿嶋大明神が石はわろとくろく
 めきとくろくもはくろくくろくくろくくろくくろく
 地衣とけろくくろくくろくくろくくろくくろく
 めきとくろくくろくくろくくろくくろくくろく

今按予の非なり神祇正宗云以石作柱者石齋乃
 際尚神明在乃神誓也神社便覽引之補常陸國誌云
 要石在鹿嶋郡鹿嶋神祠東高天原石根入地無
 知其大小者俗謂扇柄釘曰要是名石要者土人
 相傳有大魚圍繞日本首尾會於斯地鹿嶋明神

釘其首尾以貫之不得動搖譬如扇柄得釘而堅
 固此石即釘也云荒唐可笑也見之者又地震を
 鯨乃あゝわろと伯陽甫が説み天地之氣不過其序若
 過其序民亂之也陽伏而不能出陰迫而不能升
 於是地有地震是陽失其所而填陰也少何ぞと等
 次考へて俗説乃相違と多し——此段改正舊文

新 鹿嶋社神軍代説附 神策乃説

俗説云常陸國鹿嶋大明神外圓内方鬼くきくひ終ふれを
 神軍より又出神國飯盛塚陸奥國多海といふ所より
 軍といふわろとくろくくろくくろくくろくくろく

今按少々常陸國誌云高天原在鹿嶋郡鹿嶋神祠
東土人相傳云鹿嶋神常出此野與外國鬼相闘
以群鹿爲卒伍明神獲利則群鹿競追風直入海
渚明神不得利則群鹿垂耳直入民家恠誕不可
信也わく俗況乃誤也あへて武甕槌命鹿嶋大
明神
天神乃勅よみて葦原此中國よきなりとてこれふ
明神作を殊依も一事とわやなり俗人て今よわに
言ふ小者くさるるものなり又非族の事ハ續日本後
紀よ云和六年出羽國よりまゝと八月廿九日田川歌西
濱遠府に移ふ十餘里まゝとて石かへ去十三日と

帶面其さくく十餘日伐経て晴天見所時おちる事
石少くハ族よ似落ふ似或ハ白くあふハ赤くやと
三代實録ふ仁和元年六月廿一日出羽國秋田城中及飽
海部神多此西濱小石綴張ゆと云々同二年二月出
羽金能海部族神社乃造小石綴とゆすくはるかそ
石よまふわく不偶寶石スガ松石ヤナギ桃花石ハナ然石シロ金牙石
令別石カキ煮石シ砒石ヒ薑石キウ見于本
草綱目墨石ボク見于本
草綱目鳴石ナリ見于南
海古蹟記
華勝
集鏡石キョウ見社陽雜編林
水錄吳中勝記米石メ物異考
小見陰陽石インヨウ括異志
廣麦飯石マクハン
石燕石セウ蛇ヘビ見本
草石魚シヨ見本
草綱目石蠟シヨウ見三才圖會
海槎石蝦シヨウ餘錄桂海虞衡志
石蠶石サカ鼈カメ其外奇石わがそかぞくくかふさふ

おもひは縁よ似るるをわさへ一但一夫よりぬるこそ
非なりと妙中ふわかとてしるるをぬるこそ此わしひ出
しぬるをわさへ一但一夫よりぬるこそ

此段訂補

新 所獲大神ハ觀音也ハ或々和修吉龍也ハ或々
信觀云ハ所獲大神ハ十一面觀音なり又云子手觀音なり
又云中天竺摩訶陀國王舍城北高貴帝牛頭天王也云
龍多世界ハ頗梨採女族娶てハ子とてハ其名ハ跋陀
跋陀沙伽羅和修吉德又迦和修吉多摩那尸優鉢那
也ハ是ハ八大龍王なり其内和修吉龍王ハ肥後國ハ獲大
神なり又云ハ所獲ハ輝ハ大明神一切衆生ハ罪ハ

あまの海なりと云はれりてハ神れとてハ一切衆生ハ罪
おかしうて立たがふけやうと神れとてハかたきう せり
中ハ人かたきうとてハあまの海なりと云はれり

今按ふハ所獲大神ハ十一面觀音千手觀音ふなり
健甕龍命なりと命々神武天皇ハ河孫小一と神ハ井耳
命芽みれ子なりと神武天皇豐蓋系中國と云はれ
るハ和列權系小在セハ神健甕龍權系小ハ山城國
宇治といふて住ハ神武七十六
年春二月癸卯朔日帝健甕龍ハ所獲と封トシ
あまの海なりと云はれり

第八回 健甕龍命

正二位勲五等
大神階

日本後紀云磐梯天皇弘

仁十四年壬寅肥後國阿蘇郡小墾從四位下勲六等健

甕龍命小當國比對二千戸を附といひ神々しくむてつと

あられ初もいふ哉ゆゑ一民とてくぬれは初るゝは

續日本後紀云承和元年正月甲申勅して阿蘇比神家

人と遣し國家比神家をむせしむ同七年從四位下勲六

等健甕龍神より從四位上に授同年年從四位上勲六等健

甕龍神小從三位と授きなり同九年九月健甕龍神等

に幣をまはす文德實錄云嘉祥三年八月健甕龍神小正

三位筑前小仁壽元年十月丙午健甕龍命大神階とてめ

從二位以下

大正階よりあるは後とて是より大の神は社より西
後紀事とてふとて大の神とてふは非なりとて非なり

齊衡元年七月健甕龍命小幣を授てす同年年三十

戸と封と三代實錄云貞觀元年從二位勲六等健甕龍

命より從二位と加同八年二月十甲庚申神祇官奏言

と肥後國阿蘇大社怒氣を懷きとて國司より勅を

て幣を授てしめ幣を授てしめ幣を授てしめ幣を授てしめ

幣を授てしめ幣を授てしめ幣を授てしめ幣を授てしめ

三 阿蘇比神 從二位 古見神代女。健甕龍代主人速

孫王金代母也文德實錄云仁壽三年二月戊寅阿蘇比神

神より從四位下と賜小三代實錄云貞觀元年從四位下阿

神別殿 綏靖天皇中、神八井耳命、才健磐龍命乃
 叔父なり、以上十二名なり、けはれと考へて、親音のわらう
 次多し、又牛頭天王ハ素盞烏多、此別号なり、祇園の摩訶
 陀園ハ高貴帝に、とあり、又龍文世界ハ顯宗採女と
 娶つて、生ずる非なり、是神代並指抄、備後國土記ハ素
 盞烏多南海ハ神女と通ひ、とあり、と傳へ、南海
 とハ南海ハ此國ハ國號とせ、舊記神籍ハ例多し、又
 阿蘇大神と牛頭天王此子と、事非なり、素盞烏多
 伊勢澤ハ神子健磐龍ハ神女乃、神孫なり、時代懸隔と
 又和修古龍王と、此ハ健磐龍命と、名と、いひて

附會ハ牛頭と此方なり、又二首ハ神祇好事の爲、他早劣
 弟ハ、據る、又龍舊録ハ、わらう、其上一切衆生、を
 書わく、とあり、むと古事、とあり、此事、なり、とあり、又
 阿蘇山乃、輝ハ大神、此ハ罪ハ、なり、て、まじかり、終と
 云、後、わらう、なり、日本後紀云、延暦十五年、阿蘇池無
 故涸減、二十餘丈、續日本後紀云、承和七年九月、河曾
 池涸減、四十丈、三代實錄云、貞觀六年十月三日、夜有
 聲震動池水沸騰、東西流落、同九年五月十日、奇光
 照耀、十二月、朝山震動、崩廣五十丈、長二百五十餘丈、北
 史隋書云、倭國有阿蘇山、其石無故火起、接天者、俗以

爲異因行祭禱

明一統志山川部載此山古事然云治承四年六月二十四日肥後阿蘇山雪降五六寸。阿蘇山とあることま不集新志作はつは廣濟池とあること後醍醐天皇の
 中は火つり煙わ雜類部ふまの細目魏書盤國有火
 山山旁皆焦溶流數十里乃凝堅即石硫黃也阿蘇山
 色此半ひかり地獄チゴ焦チホ一チホ大非イカリ念
 擬キとぬモウたコト殊ケリ煙ケリすハイくチニハク小田畠チニハクこれあ
 に荒茶木カレこウホころあエツサくイワラ新流ミラ黄白川ミラふミラくミラ入
 死シス魚ウホ少シスくシス一シス切シスえシスれシス罪ツミかツミくツミ経キれキ大非イカリ何イカリれイカリ

小かふジ意ジふジんジやジわジ事ジとジ非ジれジ不ジおジとジくジ知ジ々
 久ク以エてエ甚ブ穢エとエはエちエりエあエはエわエんエ人エもエどエくエあエはエ

此段改作



廣益俗說辨卷二終

